

日本語のことわざに於ける反義語の性質

清海節子

1. はじめに

ことわざの修辭的技巧の一つに対照法があり、反義語¹⁾がことわざの意味を強める役を担っていると考えられている（奥津 2000）。例えば、英語のことわざの ‘Penny wise, pound foolish’（「一文惜しみの百知らず」）や、日本語のことわざの「聞いて極楽見て地獄」では、[wise-foolish]、[極楽-地獄]という反義語が意味を強調する役割を果たしている。

ことわざの中で反義語が利用されている例を収集し、どのような語彙が反義語として用いられているのかを知ること、ことわざに用いられる反義語の役割をよりよく理解できると考えられる。本稿は、日本語のことわざに用いられる反義語の役割を明らかにするために、高い頻度で使用されている語彙の性質を考察する。また、日本語のことわざを扱うと同時に、英語訳ではどの程度反義語が使われているかについても検討する。

次節では、ことわざの先行研究の中で、主に比較研究を概観し、3節では、反義語の先行研究と定義について説明がされる。4節で、日本語のことわざに用いられる反義語の例を名詞、関係概念、形状性概念、動作性概念に分類し、その特徴を明らかにする。最後の5節では結論が述べられる。

2. ことわざの先行研究

最初にことわざの定義をみることにする。英語と日本語の辞書の各2冊で定義を調べると以下のようなものである。

- (1) (i) ‘A short, well-known pithy saying, stating a general truth or piece of advice.’ (*ODE*)
- (ii) ‘A proverb is a short sentence that people often quote which gives

advice or tells you something about life.’ (*COBUILD*)

- (iii) 「古くから人々に言いならわされたことば。教訓・風刺などの意を寓した短句や秀句」 『広辞苑 第六版』
- (iv) 「教訓・風刺・真理などを巧みに言い表し、古くから世間の人々に知られてきた短いことば」 『明鏡国語辞典』

上の4つの定義から共通部分に基づくと、ことわざは「一般的真理や教訓が短く表現された、人々に馴染みのある表現」であると言えるだろう。

以下、先行研究として、最初に 2.1 で、ことわざの表現の形式について奥津(2000)の分類を見る。次に 2.2 と 2.3 で、日本語と英語のことわざを比較研究した武田(2006)と奥津(2006)を概観する。2.4 では、外国起源のことわざの定着について、北村(2006)を見た後、2.5 では「なぞなぞ」と「ことわざ」を比較した池上(1992)を紹介する。

2.1 ことわざの表現形式

奥津(2000: 31-36)は、英語と日本語のことわざを比較し、記憶を容易にするための修辞学上の技巧を内容と外形に分け、内容に関する技巧は、i) 比喩、ii) 擬人法、iii) 逆説、iv) 誇張法の4種類、外形に関する技巧は、v) 頭韻、vi) 脚韻、vii) 反復、viii) 対照法、ix) 省略の5種類あるとしている。以下、奥津の分類と説明、そして、英語と日本語の各例を見ることにする。

(2) (i) 比喩—(metaphor)

表現を面白くし記憶に残るようにする最も基本的な技法。

例: *Rome was not built in a day.* (ローマは一日にして成らず)

「弘法も筆の誤り」

(ii) 擬人法—(personification)

生命を持たない事物や抽象概念を人に喩えて扱う手法。

例: *Love is blind.* (恋は盲目)

「壁に耳あり」

(iii) 逆説—(paradox)

真理と反対のことを言っているようでありながら一種の真理を表している。

例：Make haste slowly. (急がば回れ)

「負けるが勝ち」

(iv) 誇張法—(hyperbole)

物事を誇張して表現することで面白みを引き出し、印象を強くする。

例：One hair of a maiden's head pulls harder than ten yoke of oxen.

(乙女の髪の毛1本は20頭の牛より引く力が強い → 女の髪の毛には
大象もつながる)

「人を見たら泥棒と思え」

(v) 頭韻—(alliteration)

同じ音で始まる音を並べてリズムカルな文にする。(例の下線が頭韻)

例：Manners make the man. (礼節が人を作る)

「無くて七癖」

(vi) 脚韻—(rhyme)

語尾に同じ音の語を並べリズムカルな文にする。(例の下線部分が脚韻)

例：Man proposes, God disposes. 「計画は人にあり，成敗は神にあり」

「亀の甲より年の功」

(vii) 反復—(repetition)

同じ語を繰り返すことで印象を強くする。(例の下線部分が反復)

例：Love me, love my dog. (愛屋^う烏に及ぶ)

「金の切れ目が縁の切れ目」

(viii) 対照法—(antithesis)

反義語を使用して意味を強め表現を面白くする。(例の下線部分が反義語)

例：Penny wise, pound foolish. (ペニーに賢く，ポンドには愚か →
一文惜しみの百知らず)

「聞いて極楽見て地獄」

(ix) 省略—(ellipsis)

簡潔な表現を基本にすることわざには不可欠の手法である。

例：First come, first served. ← Those who have come first are first
served. (早い勝ち)

「柳の下のだじょう ← いつも柳の下のだじょうは居らぬ」

以上、奥津が外形として、(v)-(ix)で5種類の技巧を挙げている中、「省略」は表現を削ることなので、他の技巧とは区別されるべきである。残りの4種類に関して、反義語が含まれる「対照法」は、同じ音が繰り返される「頭韻」、「脚韻」、「反復」と性質が異なる技法であると考えられる。それは、反義語が、[肯定-否定]で表される場合(例:[見る-見ない])以外は、音の重複が含まれないことが多いと考えられるからである。従って、「対照法」は、音の要素に依存せず、意味的な要素だけで、ことわざの表現に役立つ技巧であるとも言えるだろう。

2.2 日本語と英語のことわざ比較 (1)

武田(2006)は、使用頻度の高い日本語と英語のことわざを各75個選んで、発音、論理構造、比喩についての特徴の比較を試みている。第一に、発音の中で、押韻を取り上げ、頭韻は英語のことわざの中では5割以上、日本語では3割程使用されていることが示されている。第二に、論理構造を扱う時、Dundes(1994)に従い、ことわざは、話題と評言から成立する命題を少なくとも一つは含まなければならないと考える。文法的に言うと、ことわざは、一つ以上の主語と述語から構成される節があるはずである。そこで、日英のことわざを単文、重文、複文に3分類し、比較してみたところ、際立った差は観察されなかったと武田は述べている。また、両語のことわざの多くが仮説と帰結から成立していることが観察され、日本語と英語のことわざに共通する論理構造の性質として捉えている。

最後に、武田は比喩の3つの形式についての割合を比較している。以下で、それぞれの形式の説明と、日英のことわざの例を見ることにする(武田, 2006: 151)。

- (3) (i) 隠喩 (metaphor): 2つのものの意味の類似関係に基づく比喩
- (a) 部分隠喩 (表現の一部が比喩になったもの)
 - 「言わぬが花」
 - ‘Time is money.’ (時は金なり)
 - (b) 諷喩 (全体が比喩になったもの)
 - 「出る杭は打たれる」
 - ‘Strike while the iron is hot.’ (鉄は熱いうちに打て)
- (ii) 換喩 (metonymy): 2つのものの現実的な隣接関係に基づく比喩²⁾
- ‘Beauty is only skin deep.’ (美貌は紙一重)

「壁に耳あり障子に目あり」

(iii) 提喩 (synecdoche): 2つのものの意味の包含関係に基づく比喩

‘When in Rome, do as the Romans do.’ (郷に入れば郷に従え)

「餅は餅屋」

上の分類の割合に関して、日本語と英語で選ばれた各75のことわざを比較すると、数値は似通っており差がほとんどなかった。以上、武田は、発音、論理構造、比喩の3つの観点から日英のことわざ比較を試みた結果、押韻を除いて、数値の点では顕著な差異がないという結論を出している。

2.3 日本語と英語のことわざ比較 (2)

奥津(2006)は日本語と英語のことわざを比べて、共通のことわざがある一方で、日英独特のことわざもあると指摘している。日英共通のことわざの例は以下のようなものがある。

- (4) 「金が物を言う」 ‘Money talks.’
 「人生夢のごとし」 ‘Life is a dream.’
 「壁に耳」 ‘Walls have ears.’ (奥津, 2006: 131)

次に日英独特のことわざに関して考えると、日本と欧米にそれぞれの神と人間の関係、習俗規範、価値観、人生観、男女観等が背景にあると奥津は述べ、以下の例を挙げている。

- (5) ‘God made the country, and man made the town.’
 ‘Knowledge is power.’
 ‘The exception proves the rule.’
 ‘Man, woman, and devil, are the three degrees of comparison.’
 「長い物には巻かれる」
 「出る杭は打たれる」
 「義理と人情」
 「男やもめに蛆がわき女やもめに花が咲く」
 「男は三年に一度笑う」

「嫁と反物は昼間選べ」 (奥津, 2006: 132)

上の例から, 国民性がことわざに反映されていることが明らかである。また, 両国で共通の内容が表されていても, 数で差がみられることがあり, 「親と子」に関することわざは日本の方がはるかに多いが, それは, 日本の親子の結びつきの強さの現れであると捉えている。そこで, ことわざから, 国民性や文化を実証することが可能であると奥津は主張している。

2.4 外国起源のことわざの定着

北村(2006)は, 外国起源のことわざが日本でどのように受け入れられてきたかを調べることは, 興味深いテーマではあるが, この観点からの研究はほとんどされていないと述べ, 予備的考察として, 西洋から日本語に入って定着した例としなかった例を取り上げている。³⁾ ことわざは, 翻訳されたら使われるわけではなく, そのほとんどが定着に至らなかった中で, 定着した例は「二兎追うもの一兎をも得ず」, 「溺れるものは藁をもつかむ」がある。

一方で, 定着しなかった例は「一桃腐りて百桃を損ず」(‘One rotten apple corrupts all those apples that lie near it’)があり, 本来のことわざの「りんご」を「桃」にしているのは, 翻訳された時代と関係があると北村は述べている。明治30年代まで, リンゴは, 市場に広く出回っていなかったということと, 「桃」は果物の総称であったということが理由として挙げられている。北村は, このことわざが浸透しなかった理由の一因として, 腐りやすい桃を比喻に用いたからであると考え。長期保存のきくリンゴと短期間しかもたない桃では, 受け止め方が微妙に異なり, リンゴは, 腐らないような対策もとれるが, 桃の場合には, もともと腐りやすいので, 腐ったものは捨てて, 残りは早く食べるしかない。従って, このことわざは, 桃の保存として感心すべき知恵を伝えていないことになる。

2.5 「なぞなぞ」と「ことわざ」

池上(1992)は, 言葉遊びの「なぞなぞ」と生活の知恵を表す「ことわざ」が, 実は近い関係であると述べ, 下の表現が「なぞなぞ」と「ことわざ」の両方に解釈できる可能性があるとは指摘している。

(6) (i) 誰がいじめるというわけでもないのに, いつもブウブウ言っている。

- (ii) 知らない人は、その上を歩いて通りすぎる。知っている人はそれを掘り出して食べる。

上の二文は、そのまま「ことわざ」になる。しかし、最後に「ナーニ」を付け加えると、「なぞなぞ」になるのである。(6i)は、「ことわざ」として〈愚痴ばかりこぼしている不平家〉を示し、ロシアに類似した伝承があると言う。また、(6ii)は、実際にビルマの「ことわざ」であり〈すぐに身近にある貴重なものに気がつかない人〉を指すのであるが、「なぞなぞ」として考えるとその答えは〈いも〉である。しかしながら、上の例のように同じ表現が「なぞなぞ」にも「ことわざ」にも解釈されるといっても、同一ではなく、我々は異なっているとみなしている。それでは、その違いは一体何であろうか。池上は、要約すると「なぞなぞ」と「ことわざ」の相違点は、前者の主題が「未知」である一方で、「ことわざ」では、主題が「既知」であると述べて、主題と叙述の関係を次のように説明している。

- (7) (i) 「なぞなぞ」:

 ノハ

 デアル
 (ii) 「ことわざ」:

 ハ

 デアル

上の例を当てはめると、(7i)は、「誰にもいじめられていないのにブーブウ言うのは豚である」で、(7ii)は、「不平家は、誰にもいじめられないのにブーブウ言うものである」と考えられる。また、池上は「なぞなぞ」と「ことわざ」の違いは上のような構造上の区別だけでないと述べている。つまり、「ことわざ」は全体で一つとしてまとまりである「コト」を提示するが、「なぞなぞ」は、主題の部分は当てられるべき「モノ」であり、主題は独立性があり、叙述の部分と対立していると主張している。従って、『なぞなぞ』というものが、言語の語彙体系に基づいた背後の分類体系に対する意図的な非絶対化の試み(池上, 1992: 188)なので、ほとんどの場合、主題が単一概念を表す単語(例:「金」「太陽」等)であるのは予想されうるし、これに対して、「コト」としてまとまりのある「ことわざ」の主題が「井の中の蛙」といった複合的概念であっても不思議ではないと述べている。

3. 反義語の先行研究と分類

反義語の用語や分類は、学者によって異なり、一番少ない分け方は、2分割であ

る(玉村(1992), 森田(1996))。森田(1996: 199-229)は、意味特徴の面である1点
 が対照的な正反対の関係にある「反義語」(例:[白-黒][善し-悪し])と指示対照
 が明らかに異なるが意味特徴の点では正反対とは認められない「対義語」(例:[山
 -川],[兄-弟])とに区別している。一方で, Lyons(1968, 1977)は、2語の間に中間
 的段階がない‘complementarity’(「相補的關係」例: ‘male-female’,
 ‘present-absent’), 連続した尺度に基づく‘antonymy’(「段階的尺度」例:
 ‘long-short’, ‘old-young’), ある種の方向性に基づく‘converseness’(「換位性」
 例: ‘buy-sell’, ‘husband-wife’)の3つに分けている。同様に, Leech(1981)も
 主要な反義語を, ‘taxonomic opposition’(分類対立関係), ‘polar opposition’(極
 性対立関係), ‘relative opposition’(相対対立関係)に三分類することを提案して
 いる。

森岡(1987: 172-173)は、具体名詞には、反義語はないはずであると述べ、名詞
 が不釣り合いなものの組み合わせで反義語であるとみなされる場合(例:「手と足」
 「椅子と机」)は、セット語であると考え。しかし、比喩もしくは象徴として使用
 される場合に反義語と受け取られるが、文化や時代などに影響を受け一定ではなく、
 中国の諺の「鶏口となるも牛後となるなかれ」は、下線部分の対立が国によって変
 化している(例:イギリス…ロバの頭—馬の尾, イタリア…ネコの頭—獅子の尾)
 と述べている。具体名詞は反義語でなくセット語であると考え森岡は、次のよう
 に具体名詞以外の抽象概念を「関係概念」,「形情性概念」,「動作性概念」の三種類
 の概念に便宜上分けている。

- (8) (i) 関係概念 --- 例:[朝-夕], [きのう-あす]
 (b) 空間 --- 例:[上-下], [左手-右手]
 (c) 人間関係--- 例:[おじいさん-おばあさん], [父-母]
 (ii) 形情性概念 --- 形容詞・形容動詞
 例:(和語系語基)[大き-小さ], [高-低]
 (漢語系語基)[忙-閑][静-動]
 (iii) 動作性概念 --- 動詞:肯定と否定, 能動と受動, 相対的対立

反義語を4分類以上に分ける見解は、国広(2002)と村木(2002)である。国広
 (2002)は、逆方向・対立的性質の「反対関係」(例:[出る-入る]), 両極的・連続
 的な「反義関係」(例:[ある-ない][長い-短い]), 両者が同時に成立する「逆義

関係」(例：[売る-買う])、空間的な「対立関係」(例：[東-西])のように4つに下位区分している。さらに、村木(2002)は、反義語を以下のように7つのタイプに分けている：「相補関係に基づく反義語」(例：[男-女])；「両極性に基づく反義語」(例：[満点-零点])；「程度性をもつ反義語」(例：[大きい-小さい])；「反照関係に基づく反義語」(例：[入口-出口])；「たがいに相手を前提とした反義語」(例：[先生-生徒])；「変化に関する反義語」(例：[あがる-さがる])；「開いた反義語」(例：[和室-洋室])。

Jones(2002)は、新聞をコーパスとして英語の反義語を分析し、ディスコースの機能を分類した。その結果、反義語のペアの共起には、対比の強調だけでなく、8つの機能があると提案した。その中でも、特に反義語に付随して別の意味の対立が生じる‘Ancillary Antonymy’（「補助的反義性」）と、総括的な意味を示す‘Coordinated Antonymy’（「等位反義性」）の2つが重要な機能である。

4. 日本語のことわざに用いられている反義語

日本語のことわざの中で、反義語が使用されている例を分類し、どのような種類の語彙が反義語として使われているかについて検討する。2.1 で紹介したように、奥津(2000)は、修辞上の技巧の一つに対照法を挙げ、反義語を使用することで、ことわざの表現力が強化されていると述べている。ここでは、反義語自体の性質について調べて行く。本研究では、英語訳も参照することができる『日英比較ことわざ事典』(1981)を使用し、日本語のことわざを調査しながら、同時に英語訳ではどの程度反義語が用いられているのかについても考慮した。反義語の分類は、森岡(1987)に従うが、森岡の定義よりは基準を緩やかにし、森岡の定義では、セット語に含まれる名詞でも、反義語の辞典⁴⁾で確認でき、明らかに対比されていると考えられる例は、反義語として扱った。以下に、調査結果を4分類し、名詞、関係概念、形状性概念、動作性概念の順で例を挙げていく。本研究で扱ったことわざの多くは、反義語1組だけが用いられており、2組の反義語が使用されている例の数は11であった。3組以上の反義語が含まれることわざは見つけられなかった。そこで、まず1組の反義語が含まれる例だけについて分類と考察をする。4.1 では名詞、4.2 は関係概念、4.3 は形状性概念、4.4 では動作性概念の例を取り上げる。2組の反義語が一つのことわざに見つけられる例は、4.5 で別個に扱うことにする。さらに、4.6 では、補助的反義語の例を見て、4.7 で、検討したデータに基づいた結果の考察が

述べられる。以下、日本語と英訳の各例で、反義語には下線が施されている。⁵⁾

4.1. 名詞

森岡 (1987) は、具体名詞だけでなく抽象名詞も、反義語ではなく、すべてセット語とみなしているが、本稿では、反義語の辞典で取り扱われている場合、反義語として考えることにした。また森岡は名詞を下位区分していないが、ここでは、名詞の意味から、「場所を表す名詞」、「架空の生物を表す名詞」、「その他」の3つに分類した。以下、反義語が含まれることわざと、その英訳をみることにする。

4.1.1 場所を表す名詞

[場所]を表す名詞の反義語は以下4例見つかった。

(9) 「海千山千」 ‘As cunning as Captain Drake.’

(ドレイク提督⁶⁾のように老練な)

「海の物とも山の物ともつかぬ」

‘Neither fish nor flesh.’ (魚肉でも獣肉でもない)

「聞いて極楽見て地獄」 ‘Imagination goes a long way.’

「天知る地知る子知る我知る」

‘The day has eyes, the night has ears.’

上の4例中で最後の例の英訳だけ、反義関係 [‘the day’ 「昼」 - ‘the night’ 「夜」] が見つけられる。

4.1.2 架空の生き物

[架空の生き物]を表す名詞の反義語は次の2例である。

(10) 「下面似菩薩内心如夜叉」⁷⁾

‘Bead in the hand and the devil in capuch.’

(手には数珠, 頭巾のなかには悪魔)

「神出鬼没」⁸⁾ ‘To appear and disappear like phantoms.’

2例中1例で、英訳に反義語 [‘appear’-‘disappear’] が用いられている。

4.1.3 その他

[場所][架空の生き物]以外を表すの名詞の反義語は、以下10例見つかった。

- (11) 「陰徳あれば必ず陽報あり」⁹⁾

‘He that sows good seed shall reap good corn.’

「氏より育ち」 ‘It is breeding and not birth that makes a man.’

「恩を仇で返す」 ‘The axe goes to the wood where it borrowed its helve.’

(斧は自分に柄を貸してくれた森へ行く)¹⁰⁾

「薬も過ぎれば毒となる。」 ‘All overs are ill.’ (すべて過度のものは悪い。)

「鶏口となるも牛後となるなかれ」¹¹⁾

‘Better be the head of a lizard than the tail of a lion.’

「毒にも薬にもならぬ」

‘Like a chip in a pottage pot, does neither good nor harm.’

「無理が通れば道理引つ込む」

‘Where might is master, justice is servant.’

「竜頭 蛇尾」 ‘Going up like a rocket and coming down like a stick.’

「災いも 福の端となる」 ‘There is not ill but may turn to one’s good.’

「災い転じて福となす」 ‘He that stumbles and falls not mends his pace.’

以上10例の中で、4例の英語訳に反義語が見られる。

4.2 関係概念

森岡は、関係概念を「時間」、「空間」、「人間関係」に分類している。これらは、認識するための区分概念としてどの言語にも存在するはずであり、異言語間でも共通性が一番高い概念であると述べている。

4.2.1 時間

森岡(1987: 174-75)は、「朝-夕」「朝-晩」は、反対概念の組み合わせなので反義語であり、勝手に組み合わせは変えられないと述べている。例えば、「朝-夜」「昼-晩」は反義語であるとはみなしていない。同じく、「きのう-あす(あした)」「^{きくじつ}昨日-^{みょうにち}明日」「おととい-あさって」「去年-来年」は中間点の両極にあるので反義語と認め

ているが、「今日-昨日」「今日-明日」「今月-来月」等のように中間と前後関係にあるものはセット語であり反義語ではないと考えている。しかし、本稿では、反義語の辞典で確認される場合には反義語とみなした。

[時間]を表す関係概念の反義語は以下3例見つかった。「朝令暮改」は「朝に政令を下して夕方それを改めかえること」(『広辞苑 第六版』)を意味することから[朝-夕]の対立があると考えた。

(12) 「明日の百より今日の五十」

‘A bird in the hand is worth two in the bush.’¹²⁾

「朝令暮改」 ‘The law is not the same at morning and at night.’

「昔は今の鏡」 ‘Things present are judged by things past.’

上3例中、2例の英訳にも反義語が見られる。

4.2.2 空間

[空間]を表す関係概念の反義語は、以下に挙げる通り 11例である。

(13) 「一枚の紙にも表裏あり」 ‘There are two sides to every question.’

「右顧左眄」¹³⁾ ‘Like a donkey between two bundles of hay.’

「内弁慶の外すくまり」 ‘A lion at home, a mouse abroad.’

「かなたによければ、こなたの恨み」

‘No man can have every man’s good word.’

「後悔先に立たず」¹⁴⁾ ‘Repentance comes too late.’

「前時の忘れざるは後事の師なり」 ‘Today is the scholar of yesterday.’

「前車の覆るは後車の戒め」 ‘Let another’s shipwreck be your seamark.’

「前門の虎、後門の狼」 ‘A precipice in front, a wolf behind.’

「内憂外患」 ‘Troubles both at home and abroad.’

「西も東も分からぬ」 ‘I am a stranger here.’

「右の耳から左の耳」 ‘In at one ear and out at the other ear.’

以上 11例中 6例で、英語訳に反義語が認められた。

4.2.3 人間関係

[人間関係]を表す関係概念の反義語は次の6例見つかった。

- (14) 「親も親なら子も子」 ‘Such a father such a son.’
「親の因果が子に報う」 ‘The father’s sins are visited on the children.’
「親の心子知らず」 ‘When the rain rains and the goose winks little wots the gosling what the goose thinks.’¹⁵⁾
「彼も人なり我も人なり」 ‘Whatever man has done man may do.’
「彼を知り己をしれば百戦危うからず」
‘Know yourself as well as your enemy.’
「子供の喧嘩に親が出る」 ‘Yelping curs will raise mastiffs.’¹⁶⁾

以上6例の中で、英訳には2例に反義語が使われている。

4.3 形状性概念

森岡 (1986: 179)は、形状性概念は、いわゆる形容詞・形容動詞を指し、和語・漢語系があり、対象を二者選択で捉えることが特徴で、中位がある[大-中-小]は例外的であると考え。森岡は下位区分していないが、以下では、形状性概念を「空間」「性質・その他」に分類し、この順に例を挙げる。

4.3.1 空間

[空間]を表す形状性概念の反義語は以下12例が認められた。

- (15) 「一長一短」 ‘Whose fire smokes not?’ (だれの火が煙らぬか)
「帯に短し袴に長し」 ‘Too much for one, and not enough for two, like the Walsall man’s goose.’ (ウォールソルの人のガチョウのように、一人で食べるには多すぎるし、二人に十分ではない)¹⁷⁾
「小の虫を殺して大の虫を助ける」 ‘Better one die than all.’
「針小棒大」 ‘To make of a fly an elephant.’
「世間は広いようで狭い」 ‘The world is but a little place, after all.’
「大魚は小池に棲まず」 ‘A great ship asks deep waters.’

「大徳は小怨を滅ぼす」 ‘He that has a good harvest may be content with some thistles.’

「大は小を兼ねる」 ‘The greater embraces the less.’

「高きに登るには、^{ひく}卑きよりす」¹⁸⁾ ‘Learn to say before you sing.’

「近道は遠道」 ‘The nearest way is commonly the foulest.’

(一番の近道は、たいてい、ひどいぬかるみ道である)

「^{おもんばか}遠き慮りなき者は必ず^{おもんばか}近き憂いあり」 ‘If men will have no care for the future, they will soon have sorrow for the present.’

「^{だい}耳は大なるべく口は^{しょう}小なるべし」 ‘Wide ears and a short tongue.’

上の12例中、英語訳は2例のみに反義語が使用されている。

4.3.2 性質・その他

[性質・その他]を表す形状性概念の反義語は、次の19例が挙げられる。

(16) 「言うは易く行は難し」

‘There is a great difference between word and deed.’

「痛くも痒くもない」 ‘I care not a mite.’ (私は少しも気にしない)

「嘘からでた実(まこと)」 ‘Many a true word is spoken in jest.’

「かわいさ余って憎さが百倍」 ‘The greatest hate proceeds from the greatest love.’

「苦あれば楽あり」 ‘Ease makes thief.’¹⁹⁾ (安楽暮らしの果ては泥棒)

「苦は楽の種」 (現在の苦労は将来の安楽を得る為の物である)

‘Every cloud has a silver lining.’

「弱肉強食」 ‘The weakest goes to the wall.’

「盛者必衰」 ‘All that’s fair must fade.’

「生者必滅」 ‘They that live longest must die at last.’

「少年老い易く学成り難し」 ‘Art is long, life short.’

「清濁併せ呑む」 ‘Take the rough with the smooth.’

「創業は易く守成は難し」 ‘One hath more ado to preserve than to get.’

「大賢は愚なるがごとし」 ‘And he is oft the wisest man who is not wise at all.’²⁰⁾

「長者の万灯より貧者の一灯」 ‘He who gives little gives from his heart;
he who gives much gives from his wealth.’

「同工異曲」 ‘To be equally excellent in workmanship.’

「回床異夢」 ‘The horse thinks one thing, and he that saddles him
another.’

「熱しやすく冷めやすし」

‘The bavin burns bright but it is but a blaze.’²¹⁾

「馬鹿があつて利口が引き立つ」 ‘When everybody's somebody, then no
one's anybody.’

「病上手に死に下手」 ‘All that shakes falls not.’

以上挙げた 19例では、英訳の 7例に反義語が見られた。

4.4 動作性概念

動作性概念は動詞類の語基を指すだけでなく、文法的に [肯定-否定] と [能動-受動] が反義語関係を形成する。最初に、一つの語基から成り立つ [肯定-否定] と [能動-受動] の例を見た後で、異なる語彙のペアが反義語である [相対的対立] の例を見ることにする。

4.4.1 肯定-否定

[肯定-否定] は、動作性概念を表現し、文法的に作られた反義語関係である。即ち一つの語基で反義語ペアが成立される。以下のような11例が見つかった。

(17) 「頭隠して尻隠さず」 ‘The foolish ostrich buries his head in the sand
and thinks he is not seen.’ (愚かなダチョウは頭を砂のなかに埋
めて他から見えないと思っている)

「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」 ‘Ask much, know much.’

「一度死ねば二度は死なぬ」 ‘A man can die but once.’

「一を知りて二を知らず」 ‘To look only at one side of the shield.’

「心ここにあらざれば 視れども見えず」²²⁾ ‘The eye is blind if the mind
is absent.’

「大蛇を見るとも女を見るな」 ‘A man must fear a woman and thunder.’

- 「罪を憎んで人を憎まず」 ‘Hate not the person but the vice.’
「問うに落ちず語るに落ちる」 ‘The tongue is ever turning to the aching
tooth.’
「物知り物知らず」 ‘A mere scholar is a mere ass.’
「成るも成らぬも金次第」 ‘Gifts break through rocks.’
「木を見て森を見ず」 ‘Not to be able to see the wood for the trees.’

上の11例の中で、[落ちず-落ちる] 以外は、すべて肯定、否定の順で表現されている。また、英訳では1例も反義語が使用されていないことに注目すべきである。

4.4.2 能動-受動

動作性概念を表し、文法的に反義性を表す[能動-受動]も、一つの語基から成り立つ反義語である。次の1例だけが見つかった。

- (18) 「酒は飲むとも飲まるるな」 ‘A drunkard is not master of his own soul.’

受け身の例文は1文だけで、英訳には反義語が使われていない。

4.4.3 相対的対立

動作性概念の中で、文法的に反義関係が成立する[肯定-否定]と[能動-受動]は、一つの語基から成立する反義語のペアを指すが、[相対的対立]は、以下のように反義語のペアが異なる語彙で表現され、以下の15例が挙げられる。

- (19) 「会うは別れの始め」 ‘The best of friends must part.’
「あつても苦勞 なくても苦勞」 ‘To have money is a fear, not to have
it a grief.’
「入るを量りて出ずるを為す」(収入の額を正確に計算したうえで、支出の計画を立てるのが経済の原則であるの意)
‘Spend as you get.’
「売り言葉に買い言葉」 ‘One ill word asks another.’ (意地悪な言葉は、別の意地悪な言葉を呼ぶ)
「勝てば官軍負ければ賊軍」 ‘Might is right.’

- 「借る時の地蔵顔, 済す時の閻魔顔」²³⁾ (物を借りるときはにこにこするが、返すと段になると渋い顔をすること: 「済す」は, 「返す」の意味で使用されている) ‘A borrowed loan should come laughing home.’
- 「借りる八合なす一升」(八合借りたら, 返すときは一升にして返すものである) ‘He that will borrow must pay.’
- 「九死に一生を得る」 ‘To have a narrow escape.’
- 「才あまりて識足らず」 ‘Wit without learning is like a tree without fruit.’
- 「去る者は追わず, 来る者は拒まず」 ‘Who can hold that will away?’²⁴⁾
- 「棄てる神あれば捨う神あり」 ‘That one will not another will.’
- 「損して 得取れ」 ‘Sometimes the best gain is to lose.’
- 「泣いて暮らすも一生, 笑って暮らすも一生」 ‘As long lives a merry man as a sad.’
- 「寝ている子を起こす」²⁵⁾ ‘Wake not a sleeping lion.’
- 「面従腹背」²⁶⁾ (表面では服従しているように振る舞いながら, 本心は背いている) ‘Many kiss the hand they wish (to) cut off.’

以上 15例の英訳では2例のみ反義語が使用されている。

4.5 2組の反義語

次に, 2組の反義語が使用されていることわざを考えることにする。以下の11例である。森岡の分類に従うと, 関係概念と動作性概念同士の組み合わせが2組づつで, 後は他の組み合わせである。以下, 2種類の反義語は, それぞれ下線と二重下線で示されている。

(20) [関係-関係]

「昨日の友は今日の敵」 ‘Kind today cross tomorrow.’

「昨日は人の身, 今日は我が身」 ‘I to-day, you tomorrow.’

[動作-動作]

「知る者は言わず, 言う者は知らず」 ‘The greatest talkers are not always the wisest man.’

「貸し物覚えの借り物忘れ」(人に貸したものはけっして忘れないが, 借りた

ものはすぐ忘れる)

‘The creditor has a better memory than the debtor.’

[名詞-関係]

「父の恩は山よりも高く、母の恩は海よりも深し」

‘God, parents and our master can never be requited.’

(神と両親と学校の先生には、恩返しをし尽くすことはできない)

[名詞-形容]

「遠 水 近 火を救わず」 ‘Water afar off quenches not fire near.’

「頭 寒 足 熱」 ‘A cool mouth and warm feet live long.’

[名詞-動作]

「頭 隠して 尻 隠さず」 ‘The foolish ostrich buries his head in the sand and thinks he is not seen.’

[関係-形容]

「遠くて近きは 男 女の仲」 ‘Man is fire, and woman tow; the devil comes and sets them in a blaze.’ (男は火、女は麻屑、鬼が来て彼らをぱっと燃やす)

「遠くの親戚より近くの他人」 ‘A near friend is better than far-dwelling kinsman.’

[関係-動作]

「あちらが立てれば こちらが立たぬ」 ‘It is hard to please all parties.’

上の11例に対応する英訳で、1組の反義語が7例に使われてはいるが、2組の反義語はどの例にもみつからない。

4.6 ‘Ancillary Antonyms’ (補助的反義語)

Jones (2002)によると、反義語のディスコースの主な機能の一つとして、反義語ペアが別の語彙の対比を生じさせる ‘Ancillary Antonyms’ (補助的反義語)がある。清海(2011)で、なぞなぞに補助的反義語の多くの例を観察したので、ことわざにも同様の例があっても驚くべきことではない。実際今回の調査では、23例が補助的反義語として認められた。以下に挙げる例で、反義語は下線の部分の語彙であり、付随して対比された語彙は二重下線が施されている。また括弧の中にも対比された語彙を書き入れた。

- (21) 「明日の百より今日の五十」(百-五十)
 「前門の虎, 後門の狼」(虎-狼)
 「帯に短し^{たすき}襷に長し」(帯-襷)^{たすき}
 「耳は^{だい}大なるべく口は^{しょう}小なるべし」(耳-口)
 「言うは易く 行うは難し」(言う-行う)
 「創業は易く 守成は難し」(創業-守成)
 「長者の万灯より貧者の一灯」(万灯-一灯)
 「同工異曲」(工-曲)
 「同床異夢」(床-夢)
 「病上手に死に下手」(病-死)
 「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」(一時-一生)
 「大蛇を見るとも女を見るな」(大蛇-女)
 「罪を憎んで人を憎まず」(罪-人)
 「問うに落ちず 語るに落ちる」(問う-語る)
 「木を見て 森を見ず」(木-森)
 「勝てば官軍 負ければ賊軍」(官軍-賊軍)
 「借る時の地藏顔, 済す時の閻魔顔」(地藏-閻魔)^か^な^{えんま}
 「借りる八合なす一升」(八合-一升)
 「九死に一生を得る」(九-一)
 「才あまりて識足らず」(才-識)
 「去る者は追わず, 来る者は拒まず」(追わず-拒まず)^{きた}
 「面従腹背」(面-腹)

上の 22例で、付随して対比された語彙の種類を考えると、動詞は(言う-行う)(問う-語る)(追わず-拒まず)の3例だけである。また、(一時-一生)は、「時間」を表す関係概念の一つの例とみなされ、形状性概念の対比は見当たらない。つまり、残りの 18例が名詞である。この結果から、反義語に付随して対比される語彙は名詞が多いと推測できる。

4.7 考察

日本語のことわざに於ける反義語には、どのような種類の語彙が多く用いられているかを調べる目的で、『日英比較ことわざ事典』(1981)の用例を参考にし、反義語を名詞(場所、架空の生き物、その他)、関係概念(時間、空間、人間)、形状概念(空間、性質・その他)、動作性概念(肯定-否定、能動-受動、相対的対立)に分類した。また、英訳されたことわざの反義語の数も調べた。1組の反義語が含まれることわざに限ってまとめると、結果は表1の通りになる。

表1：分類された反義語が含まれることわざの数と英訳に反義語が含まれている数

分類	分類の反義語を含むことわざの数	英訳に反義語を含む数
名詞 [場所]	4	1
名詞 [架空の生き物]	2	1
名詞 [その他]	10	4
関係概念 [時間]	3	2
関係概念 [空間]	11	6
関係概念 [人間]	6	2
形状性概念 [空間]	12	2
形状性概念 [性質・その他]	19	7
動作的概念 [肯定-否定]	11	0
動作的概念 [能動-受動]	1	0
動作的概念 [相対性対立]	15	2
合計	94	27

この結果から何が読み取れるだろうか。まず、名詞だけの総数は16、関係概念の総数は20、形状性概念の総数は31、動作的概念の総数は27である。総数から言えるのは、形状性概念、つまり形容詞・形容動詞の反義語がやや多いと言える。次に、意味に注意すると、名詞の[場所]、関係概念の[空間]、そして、形状性概念の[空間]は、すべて「空間」を表現すると考えられる。その総数は27例で、今回検討した反義語の意味としては一番多い。従って、顕著な意味特徴として、空間に関連する反義語は、頻度が高く使用されていると提案できる。

何故空間を表す反義語が多く使用されているであろうか。荻野・野口(1996)は、認知心理学的アプローチからの反義語研究で、大学生 266名に反義語のアンケート調査を行った結果、空間的な方向性の対立があれば、反義語らしさが強まると述べている。荻野・野口は、その理由については言及していないが、空間に関係する表現が、人間にとって一番具体的で分かりやすいからではないだろうか。例えば、視覚に訴えない時間や、性質などと比べると、空間はより容易に理解できると考えられる。換言すると、反義語は空間に関連する語彙で使用される時に、反義性が強調されるので、ことわざでも、空間を表す反義語が使用される頻度が高いのであろう。

動作的概念で注目すべき点は、語基が同じである[肯定-否定] (例:[隠す-隠さず])を含む例数より、[相対性対立] (例:[泣く-笑う])として分類されているような異なる語彙で表現された反義語の例数が若干多かったことである。この理由は、異なる語彙で反義性を描写することにより、意味の対比が強調されるということが考えられる。一方で、[肯定-否定]で表される反義語は、語幹が同じであるので、語頭の同音反復になり、ある種のリズムが創造され、ことわざとして覚えられ易いと思われる。しかしながら、同じ語基から成立する反義関係 [能動-受動]は1例しか見つからなかった。

Jones (2002) が提案した ‘Ancillary Antonyms’ (補助的反義語) は、22例見つかった。その内ほぼ8割(18例)が名詞の対比であった。なぞなぞにも補助的反義語の多くの例が観察されていることから、なぞなぞと近い関係であることわざにも補助的反義語が見つけられることは何ら不思議ではない。

また、日本語のことわざに於ける反義語は、英訳では反義語として表現されていない傾向があることも明らかになった。今回の資料に限って言えることではあるが、反義語が含まれている日本語のことわざでの英訳には3割以下しか反義語が見つからなかった。さらに、日本語のことわざで、2組の反義語が使用されている例は、11例あったが、それに対応する英語のことわざには、2組の反義語は1例もなかった。従って、日本語のことわざの反義語は、英訳では反義語で表されない傾向があると言えるだろう。

5. 結論

本稿では、日本語のことわざの中で、どのような性質の反義語が使用されている

かについて、『日英比較ことわざ事典』(1981)を参照して調査した。結論として、品詞では、形容詞・形容動詞が使用される頻度がやや高いことが明らかになった。また、注目すべき特徴として、意味的には「空間」に関連する語彙が多く使用されていることが分かった。荻野・野口(1996)は、空間的な方向性の対立が反義語らしさを強めると指摘しており、空間に関する語彙は、視覚に訴え理解することが容易であり、ことわざのメッセージを分かりやすく伝える役割を果たしていると推測した。さらに、反義語が含まれている日本語のことわざの英訳の中には、3割以下しか反義語が見つからず、日本語のことわざの反義語は、英訳では反義語で表されない傾向があることも分かった。

注

- 1) 反義語は、英語では、‘antonyms’や‘opposites’等に相当し、日本語では、「対義語」や「反対語」等とも呼ばれる。本稿では、対立的な意味と捉えられる語ペアの総称として「反義語」を用いる。
- 2) 武田(2006:151)は、「換喩」について「対象そのものではなく対象と密接な関係のある他のもので表す比喩形式である」と述べ、「壁に耳あり障子に目あり」では、「覗き見をする人」が「障子の穴に当てた目」で表されていると考えられる。他の例として「口の禍の門」の「口」が「言葉」の換喩で、「笑う門には福来る」の「門」は笑いの耐えない朗らかな「家庭」の換喩であると説明している。
- 3) 北村(2003)は、西洋から入って日本語に定着した代表的な8例を選び、ルーツを探し出し、いかに日本語に取り入れられたかについてのプロセスを考察している。
- 4) 反義語であるか確認するのに参照した辞典は、『活用自在反対語対照語辞典』(1998)、『反対語対照語辞典』(1989)、『反対語便覧』(1996)の3冊である。この中の一冊でも反義語として扱われていれば、反義語の例として取り上げた。
- 5) 英語で反義語かどうかを判断する際、主に *Oxford Thesaurus of English* (2006)を参考にした。
- 6) ドレイクは16世紀のイギリスの提督で地球を周航した最初のイギリス人で、抜け目がないことでも有名であった。
- 7) 「菩薩」と「夜叉」は、反義語の辞典にはなかったが、「げめんじぼさつないしんによやしや下面似菩薩内心如夜叉」は、「女性の顔は美しく柔和に見えるが、その心根は陰悪で恐るべきである」(『広辞苑 第六版』)「容貌は菩薩のようにやさしいが心は夜叉のように邪悪で恐ろしい

- ということ」(『明鏡国語辞典』)という意味から、「菩薩」と「夜叉」は、「神」と「悪魔」として解釈できるので反義語と考えた。
- 8) 「鬼」は反義語の辞典にはなかったが、「鬼」は、「悪魔」と解釈され得るので、「神-悪魔」という反義関係があると考えた。
- 9) 「陰徳あれば必ず陽報あり」は『新明解故事ことわざ辞典』によると、「かくれた善行をする者には、必ずだれの目にもとまるようなよい報いがあるということ」であり、「陰徳」は「人に知られない善行」「陽報」「はっきり現れたよい報い」の意味である。このことわざには、[陰-陽]という反義語関係が含まれていると考えた。
- 10) 類句として、‘I taught you to swim, and now you’d drown me.’(私は、あなたに泳ぎを教えたが、今やあなたは私を溺れさせようとしている)がある。
- 11) [鶏口-牛後]という対比は反義語の辞典にはないが、「鳥の頭に牛の尻にはなるな」という意味であることから、[頭-尻]という反義関係があると考えた。森岡(1987)は、「鶏口となるも牛後となるなかれ」という中国のことわざが日本では、「小鳥の頭-大鳥の尾」と対比されていると述べている。しかし「鶏口となるも牛後となるなかれ」は起源が中国であるにしても、「大鳥の尾より小鳥の頭^{かしら}」よりも使用頻度が高いと思われることから、日本のことわざとして扱うべきだと考える。『新明解故事ことわざ辞典』では「鶏口となるも牛後となるなかれ」の項で、類義として「大鳥の尾より小鳥の頭^{かしら}」「鯛の尾より鯛の頭」が挙げられるが、項目としては「鯛の尾より鯛の頭」だけが記載されている。同様に、『岩波ことわざ辞典』でも「鯛の尾より鯛の頭」は項目として扱われているが、「大鳥の尾より小鳥の頭^{かしら}」は見つからない。
- 12) 類句として、‘An egg today is better than a hen tomorrow’や‘One hour today is worth two tomorrow’等がある。
- 13) 「左顧右眄」とも言う。
- 14) 「後悔」の「後」(あと)と「先」が時間的に対比されていると考える。『岩波ことわざ辞典』でも、「後」と「先」を反義語であると捉えている。
- 15) 「雨が降ってきたので親ガチョウがウィンクして合図しても、ガチョウの子には、親が考えていることがほとんどわからない」の意で、‘wot’はイギリス方言で、「知っている」を意味する。
- 16) 吠え合う野良犬どもがマスティフ犬(=英国種の由緒正しい猛犬)の目を覚まさせるの意。

- 17) ガチョウは贅沢な鳥なので、懐が淋しく買う余裕がないので負け惜しみで言う。
- 18) このことわざの意味は、「高いところに登るためには、低いところから始めなければならない」であり、「卑き」は、「低き」と解釈できるようである。
- 19) 「楽あれば苦あり」とも言う。
- 20) 英訳は、「一番賢い」(‘the wisest’) と、「全く賢くない」(‘not wise at all’) の対比で表現されているが、意味的に [賢い-愚か] と理解できることから反義語とみなした。
- 21) ‘The bavin burns bright but it is but a blaze’ の ‘bavin’ は、「そだ」(=火つけに用いられる小枝で、勢いよく燃えるがすぐにも燃え尽きてしまう) で16世紀頃に生まれた語である。
- 22) 「心ここにあらざれば 視れども見えず」は、「心が他のことにとらわれていると、じっと見つめても何も見えない」(『新明解故事ことわざ辞典』) の意味であり、「視る」は、「じっと見る」と言う意味なので、「見る」の変種であると考えた。また、「見えず」は可能の否定になっているが、「見ず」として捉え、[見る-見ず] という反義語が基底にあると解釈した。
- 23) 「^か借る時の地蔵顔、^な済す時の^{えんま}閻魔顔」は、『新明解故事ことわざ辞典』では、「借りる時の地蔵顔、返す時の閻魔顔」と紹介されている。
- 24) ‘Who can hold that will away?’ (立ち去る者を誰が引き止められるだろうか) の中の ‘away’ は、イギリスの俗語で「行く」及び「去る」を表現する。
- 25) 「寝ている子を起こす」では、[寝る-起きる] という反義語関係が基底にあると考えた。
- 26) このことわざには、[従う-^{そむ}背く] という反義語が含まれていると考える。

参考文献

- 池上嘉彦 1992. 『ことばの詩学』(同時代ライブラリー 132) 岩波書店, 東京.
- 荻野綱男・野口美和子 1996. 「反対語意識の構造」 『日本語研究』16:78-111.
- 奥津文夫 2000. 『日英ことわざの比較文化』 大修館書店, 東京.
- 奥津文夫 2006. 「日英ことわざと背景文化の比較」 日英言語文化研究会 (編) 『日英語の比較-発想・背景・文化』131-138.
- 北村孝一 2003. 『ことわざの謎』 光文社新書(129), 東京.
- 北村孝一 2006. 「外国から日本に入ったことわざの表現」 日英言語文化研究会

- (編)『日英語の比較-発想・背景・文化』139-146.
- 清海節子 2011. 「なぞなぞに使用される反義語の考察」『駿河台大学論叢』42:87-107.
- 国広哲弥 2002. 「類義語・対義語の構造」 飛田良文・佐藤武義(編)『現代日本語講座第4巻 語彙』152-171, 明治書院, 東京.
- 武田勝昭 2006. 「日英ことわざの表現法の比較」 日英言語文化研究会(編)『日英語の比較-発想・背景・文化』147-153.
- 玉村文郎(編)1992. 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社, 京都.
- 日英言語文化研究会(編)2006. 『日英語の比較-発想・背景・文化』(第二版) 三修社, 東京.
- 村木新次郎 2002. 「意味の体系」 北原保雄(監修), 齋藤倫明(編)『朝倉日本語講座4: 語彙・意味』54-78, 朝倉書店, 東京.
- 森岡健二 1987. 『語彙の形成』(現代語研究シリーズ 第1巻) 明治書院, 東京.
- 森田良行 1996(2001²). 『意味分析の方法』 ひつじ書房, 東京.
- Dundes, Alan. 1994. 'On the Structure of the Proverb.' W. Mieder and A. Dundes eds., in *The Wisdom of Many: Essays on the Proverb*, 43-64. Madison: The University of Wisconsin Press.
- Jones, Steven. 2002. *Antonymy: a corpus-based perspective*. Routledge: London and New York.
- Leech, Geoffrey N. 1981. *Semantics*, 2nd edn. Harmondsworth: Penguin.
- Lyons, John. 1968. *Introduction to Theoretical Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lyons, John. 1977. *Semantics*, 2 vols. Cambridge: Cambridge University Press.

辞典

- 『岩波ことわざ辞典』 時田昌瑞 2000 (2002⁶). 岩波書店.
- 『活用自在反対語対照語辞典』 第4版 反対語対照語辞典編纂委員会(編) 1998 (2006⁴). 柏書房.
- 『広辞苑 第六版』 (電子版) 新村出(編) 2008. 岩波書店.
- 『新明解故事ことわざ辞典』 三省堂編修所(編) 2001 (2007⁸). 三省堂.
- 『日英比較ことわざ事典』 第2版 山本忠尚(監修), 創元社編集部(編) 1981

- (1996²). 創元社.
- 『反対語対照語辞典』 第6版 北原保雄・東郷吉男(編) 1989 (1998⁶). 東京堂出版.
- 『反対語便覧』 三省堂編修所(編) 1996. 三省堂.
- 『明鏡国語辞典』 (電子版) 北原保雄(編) 2002-4. 大修館.
- Collins COBUILD Advanced Dictionary of English. (COBUILD)* (電子版) 2009. HarperCollins Publishers.
- Oxford Dictionary of English. (ODE)* (Second Edition revised) (電子版) 2005. Oxford University Press.
- Oxford Thesaurus of English. (Second Edition revised)* (電子版) 2006. Oxford University Press.